

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎(752)0453 小林えみ子 ☎(482)5451

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

☎(483) 1151

今月24日、2015年度日本共産党千葉県委員会の国に対する予算要望交渉に参加、市民のみなさんの暮らし・福祉の充実をめざし、現状を訴えてきました。

さまざまな交渉項目のなかで、生活保護行政にかかわる問題について報告します。

◆生活保護制度の改善について

- ①この間切り下げた、生活保護基準をもとに戻すこと。
 - ②住宅扶助や冬季加算の削減計画を中止すること。
 - ③申請の書類添付や扶養確認の強化など「水際作戦」の横行をやめさせること。
- 以上3点を要望し、厚生労働省の社会・援護局保護課の係長が答弁しました。

①については、後日の返事となりました。

②については、夏季加算の新たな創設も求めました。

今のままでは、冬季分の加算で灯油は約30リットルしか買えません。また、夏季加算については、「近年の猛暑からエアコンの使用により電気代の増となり、それでもエアコンを使うのをためらってしまう」ことから、あらためて要望を行いました。

答弁では、社会保障審議会で議論しているにとどまりましたが。

③については、申請の時に自分の現状をうまく伝えられない人もいるからこそ丁寧な対応と、まずは申請書をかける状況が大事だと訴えました。また、現在保護を受けている人への調査の強化もされていることを訴えました。

答弁では、今までと何ら変わっていない。実態は他法活用(生活保護以外の制度を先に使用)を優先させるために、申請の前に面談すると答えました。

また、現在受けている人への口座など調査の同意書については「八千代市でやっていることなので、知らない」との答えでした。

国は、わずか0.3%の不正受給者を取り締まることばかりに目が行き、本来受けるべき人への対応をおろそかにし、「受給できない、水際作戦となってしまう」が明らかとなりました。

銚子市の悲劇を繰り返すな!

9月に発覚した銚子市の県営住宅の中学校2年生のお子さんが「無理心中によって命を落とす」原因も福祉の手が行き届かなかったことと、家賃の減免が行われていなかったことにあります。

暮らし・福祉の充実をめざしてみなさんの声をしっかり届け、今後とも改善させるよう追及してまいります。

